

## 平成26年度東明館高等学校卒業証書授与式 理事長式辞

皆さん、卒業おめでとうございます。今日、25期生、108名の皆さんが晴れて東明館高等学校を卒業し次の人生への新たな一歩を踏み出すことになりました。卒業生を前に理事長としてあいさつできることは大層喜ばしいことです。

皆さんは、東明館高等学校の3年間、中学校・高等学校6年間の学業を終え、今ここに東明館という学び舎を巣立とうとしています。一人ひとり東明館での生活を振り返り、感慨深いものがあると思います。おそらく、十年たち、二十年たって人生を振り返ったとき、高校時代のことが昨日のように思い出され、懐かしい思い出とともに、現在の自分の土台を築いてくれた時期だったと確信する時が来るでしょう。

高校時代に身につけたものは、今皆さんが感じることができないくらい大きなものがあります。そのことに確信を持ち、今後の人生への自信にしてほしいと思います。しかし、高校時代に学んだこと、身につけたことがどのように役立つかは今後の皆さんの努力にかかっています。

皆さんは、4月からの進路を決めた人、これからまだチャレンジを続ける人など、共に学んできた友人たちの間でも、その生活はそれぞれに変わっていくでしょうが、いずれの道が待っていようとも、大切なことは、目標を掲げて努力し続ければ、人生にとって無駄なことは一つもない、すべての努力が一人ひとりの今後の生活の大切な糧になるということです。皆さんの一人ひとりの血となり肉となり、皆さんのこれからを支えてくれるということです。

現在成功し大きな成果を上げたと思われる人も、その人の人生でみれば多くの紆余曲折があり、曲がり角があり、成功や失敗があり、絵にかいたような順風満帆の人などはどこにもいないはずです。それでもそれぞれにその時々を大切にしていって一歩一歩努力した積み重ねが大きな成果になっているのです。その点で、皆さんの今後のたゆまぬ研鑽に大いに期待しますし、本校が教育理念として掲げる「好学愛知・自律自啓」の精神をこの機会に今一度振り返ってみることにします。

東明館は、江戸時代の学者で日田の咸宜園を開いた広瀬淡窓の教えを受け、「好学愛知・自律自啓」の精神を創立以来、教育理念としています。成功から学び失敗から学び、あらゆる機会に学び、広く世界に知識を求め、自らの力で自分自身を啓発していくことで社会に貢献する人になる、これがこの理念の意味するところです。私はまだ東明館に赴任して長くはありませんが、この言葉に大層感銘を受けています。

皆さんは今後大学で学び社会で学び、優れた先達に学び、多くの学ぶ機会を持つこととなりますが、学んで学んで学び続けてください。中国の教えに、「学

びてしかる後に足らざるを知る」という言葉がありますが、学べば学ぶほど自分の中に欠けているところ、もっと改善しなくてはいけないところがあるのが分かるという意味で、学ぶことに終わりはないことを意味しています。それはまた人は学ぶことで人間的に成長できることを意味しています。どうか「好学愛知・自律自啓」の精神を生涯のモットーとして研鑽に努めてください。

ところで、25期生の皆さんが高校に入学した2012年はどのような時期だったのでしょうか。この間のことのようにですが、その間にもいろんなことが起こりました。日本では、その前年に東日本大震災があり、安全な社会づくりに向けた取り組みが重要となった時期でした。今なお困難な復興の途上にあり、多くの未解決の問題を抱えています。

皆さんが高校生活を送った時期は、おそらく日本の現代史において重要な時期であったといわれることとなるでしょう。しかしいまだそれがなんであるのか、何であるべきか、確たるものが見えているとは言えません。それは皆さんの時代に皆さんの活躍によって明らかにされることでしょう。新しい歴史のページを皆さんの力で開くことになるでしょう。

世界に目を転じると、同じく前年の2011年にはアラブ世界でジャスミン革命が起き、チュニジアからエジプトへそしてリビアへと、圧政に苦しむ人たちが新しい時代を開こうと多くの若者が行動しました。しかしそれも今は、そのときに期待したこととは違った状況が広がっています。それくらい現代は先が見通せない時代となっています。

そのために、21世紀は、羅針盤のない時代、海図のない時代とよく言われます。こう進めば繁栄があるという決まった方向が見えない時代だと言われます。私たちが生きてきた時代も決して定まった方向などありませんでしたが、今はそれが一層強まっているといわれています。

しかしそうした時代はチャンスと可能性に満ちあふれた時代でもあります。皆さんの若さや創造性、新しいセンスがものをいう時代です。ぜひその可能性とチャンスを引き寄せるために、時代にチャレンジし続けてください。そのためにも皆さんがこの学園で学び身につけたことに対して自信を持ち、皆さんの周りには多くの道が開かれていて、それを見出す力を皆さんが身につけていることに確信を持ってほしいと思います。

そして母校を大切にしてください。母校の発展のために後輩たちのために、今後は同窓生として、今後とも機会あるたびに東明館に足を運び、成長した姿を見せてください。楽しみにしています。悩んだ時に故郷に帰るように母校に足を運ぶのもいいでしょう。今後とも母校を生涯の学び舎としてください。

さらに、皆さんをこれまで教え導かれた先生方へ、育ててくださったご両親、ご家族の方々、地域の皆さんへの感謝の気持ちを持ち続けてください。

最後に、ご子女の成長を見守ってこられたご父母、ご家族の皆さん、ご子女のご卒業おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。この日まで長きにわたって本校の教育を支えていただきありがとうございました。今後とも本校の発展にご支援を頂ければ誠に幸いに存じます。

また、松田基山町副町長様、二又後援会長様をはじめとするご来賓の方々、今日の卒業式のためにご多忙な中ご臨席いただきありがとうございました。今後とも本校の発展をご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月1日

学校法人東明館学園 理事長 慈道裕治